

『ソーラープレーン現状報告 5』

去る3月12日、予めからの計画通り宮城県栗原市の瀬峰飛行場にて滑走試験を行いました。当日の3時前に青梅を出発。現地まで470kmの道程です。途中、何度か試験で訪れた福島の地を横目に更に140km。やはり一段と遠いと実感。



[\(⇒当日の様子\(動画\)はこちらから\)](#)

9時に現地到着。既に岩手大学デコレの刈部君が待っていてくれました。快晴。風は滑走路に対しては真横2～5mといった感じです。飛行場を管理する佐々木さんのご好意で立派な駐機パッドをお借りし、早速組み立て開始。デコレメンバーの手伝いも得て順調に組み上がります。サレジオ高専の渡邊先生も遠路駆け付けて頂きました。



平日の事もあり、トレーニングもビジターもなさそう。早速機体を滑走路に据えて試験開始です。600mの滑走路はやはり長い！仮に少しぐらい浮いても何の心配もない。ただし横風だけは容赦無く吹き続けています。エルロンがあれば十分対処できるコンディションながら、SP-1は『上反角+ラダー』機。横風で直進滑走するのは限界がある。どうしても走路の中央から逸れてパワーオフを強いられます。ひとまず前回の試験で泣いた前脚シミは解消したようだ。



調整を繰り返す内、風も徐々に息をつく様子。滑走開始の軸線を風上に取り、走行中のバンクを抑える作戦で滑走速度が乗ってきました。時折強まる横風に、パイロット判断で少し浮かせます。飛行機は空中の方がずっと自由が利くため、適切な判断です。偏流角も決まり滑走路をきれいなぞっていく SP-1。これまで何度もバンジーで飛行した経験が確実に生きている。

夕暮れに備えて15時には撤収を開始。日没前にはすべて車載を終えました。飛行場の佐々木さんのご好

2013年3月18日

意で夕食をご馳走になる事に。佐々木さんは固定翼と回転翼の両方を操縦するベテラン。震災当時の飛行場の様子など、大変興味深いお話を伺うことができたひと時です。お腹も満たし、ご協力頂いた栗原の皆さんに感謝しつつ瀬峰飛行場を後にしました。

今回の滑走試験は軽いエアボーンのおマケも着いて、上々の出来。今後は動力系以外にも各部の信頼性を強化する作業が待っています。特に計器類の調整が急務。また、軽量化の余地もあちこちに残っているため、これも宿題。それと、悩むのがエルロン。横風のコンディションでの離着陸を制限すると、飛行できる機会が激減してしまいます。



さて、どうしたものか・・・

今後のEV飛行機の実現を待てるチャレンジです。ご協賛のほか、バッテリー、ソーラーパネルなど、引き続きご支援をお待ち致しております。よろしくお願ひ致します。

四戸 哲

2013/3/18